

実務経験のある教員等による授業科目一覧

環境科学部 フィールド生態学科

科目CD	科目名	担当教員	配当年次	単位数	実践的教育の授業内容
COM105	キャリアデザイン	樋口 貴子	1	2	1級キャリアコンサルティング技能士として、昨今の大学生を取り巻く就職環境の変化に応じた大学生に必要なキャリア教育として、全15回の授業を通して、キャリア理論と組織心理学や人的資源管理・経営管理論をベースに、これからの新しい時代に必要とされるキャリア形成について、自分の将来の指針やキャリア目標を立てるための「自己理解」「仕事理解」「啓発的経験」に関する個人ワークとグループセッションを織り交ぜて、アクティブラーニング形式で展開する。
HE041	ビジネスコミュニケーション	樋口貴子	3	2	(3年次配当科目のため令和5年度不開講) 民間企業で採用・人材育成に携わった経験、ならびに1級キャリアコンサルティング技能士として民間企業や地方公共団体での能力開発の実務経験を基に、ビジネスコミュニケーションをケースメソッドで指導する。また、実際のビジネスシーンで活かせる実践的な対人技術スキルやビジネスマナーを習得するため、ペアセッションやグループワークを織り交ぜたアクティブラーニング形式での演習を展開する。また、最終回はプレゼン面接として、採用面接を想定した「自己PR」「学生時代に力を注いだこと」をプレゼンテーション形式で実施する。
HE042	キャリア形成演習	樋口貴子	3	1	(3年次配当科目のため令和5年度不開講) 民間企業で採用・人材育成に携わった経験、キャリアコンサルティング技能士として民間企業や自治体の人的資源管理のコンサルティング経験を基に、年々変化する大学生を取り巻く就職環境に即したキャリア開発の実践力をアクティブラーニングで指導します。就職活動の本番をイメージするため、グループディスカッションや模擬面接などの採用試験を想定した実践演習を行います。よって、2日間の本プログラムでは、リクルートスーツを着用して参加してください。
ENS207	海洋ダイビング実習	中東 明佳	1	1	いくつかの大学において、ダイビング実習を受け持った経験のある学外のインストラクターにより、実践的なダイビング実習が展開される。インストラクターは、学生の理解の度合いやダイビング経験に合わせ、座学やプール・海洋実習の内容を調整できるだけでなく、ダイビングの経験が豊富であり、非常に優れた指導方法を展開することができる。また学生の抱えるダイビングに関する心配事や不安に対して、寄り添ったアドバイスと親身な対応を実践するインストラクターである。
ENS232	インターンシップ I	中東 明佳	2	1	事前説明会および指定した講座への参加を必須とする。担当教員や担当教員が依頼した教職員と学生との間でよく相談を行い、インターンシップ受入先企業等を選定し、企業等に連絡を入れる。『科目の概要』における記載の通り、事前学習を行い、受入先の企業等と学生とのマッチングが完了後、自身のインターンシップに参加する目的・目標の確認や、カリキュラムとの関連性への意識付け、受入先企業等についての情報収集等を行い、それを担当教員に期限までに報告をする。この内容は、必要に応じて、受入先企業にも提供する。その後、受入先企業等にて就業体験を実施する。就業体験終了後、インターンシップ実施内容の取りまとめを通じて学修成果の確認、今後の自分の行動変革に結びつけられる事項などを踏まえた事後報告を、報告会の形式で口頭発表する。
ENS234	水族館展示実習	小林 龍二	2	1	社会人講師、AL。本科目においては、現役の水族館館長から講義を受ける(社会人講師)。第一回から第三回においては、教員が適宜、印刷資料を配布するほか、板書によって、授業を展開する講義形式の授業を行う。第四回の授業においては、教員の指示のもと、各受講生は、班単位に分かれて、水槽を立ち上げる作業を行う(AL)。第五回の授業では、水槽の展示に必要な基礎知識や工夫すると良い点について、板書を行う形にて講義を行う。第六回は、竹島水族館を見学し、受講生は、実際にプロが行う水槽展示を見て、アイデアを集める(AL)。第七回から第八回では、竹島周辺において、竹島水族館スタッフのサポートも受けながら(社会人講師)、受講生自ら生物採取を行う(AL)。第九回・第十回の講義では、第七回・第八回において採取した生物を大学内に持ち帰り、受講生が主体となって、水槽での飼育・展示のための作業を行う(AL)。第十一回においては、教員が冒頭に講義形式にて、説明を行ったあと、各受講生は、その説明を受けて、他者に魅力を「伝える」ための手段として、水槽とともに展示する掲示物を作成する形で行う(AL)。第十二回の授業では、受講生自らが水槽のメンテナンスを実施し(AL)、その後、講義形式にて授業を行う。第十三回の授業では、冒頭に講義形式にて授業を行った後、各受講生は班単位にてグループワークを進める(AL)。第十四回の授業では、各受講生が発表を行う形で行う(AL)。第十五回の授業は、教員の指示のもと、受講生は、班単位で、水槽の撤収を実施する(AL)。

実務経験のある教員等による授業科目一覧

環境科学部 フィールド生態学科

科目CD	科目名	担当教員	配当年次	単位数	実践的教育の授業内容
ENS239	動物園・水族館実習	立脇 隆文 西田 美紀	2	1	本科目では、自ら動物園・水族館に実習を申し込み、実習を行い、その内容を報告するまでを行う。具体的には、自ら実習先として、全国の動物園・水族館に対して自ら連絡し、実習のアポイントメントをとり、実習の調整を行い(第一回)、実際に実習を経験させていただき(第二回から第十四回)、実習先で得られた知識・経験を自らの言葉で発表・報告する(第十五回)までを含む学びである。第一回では、教員と相談しながら実習先にアポイントを取り、第二回から第十四回には、動物園・水族館の職員に学び、第15回ではパワーポイントを用いた発表を行う。
PSC200	臨床心理学概論	二宮 有輝	1	2	教員による講義を中心に行う。教員は臨床心理士として非常勤で児童精神科病院、教育センター、学生相談室に勤務し、常勤でスクールカウンセラーとして学校に勤務した実務経験がある。そのため、授業では教員の実務経験に基づいた具体的なエピソードが活用される場面も多くなる。これにより、受講生は本科目の内容について、より具体的な知識として学ぶことができるであろう。
PSC221	教育・学校心理学	坂本 真也	1	2	授業の展開として、基本的に講義形式を取る予定であるが、受け身的な形式ではなく、積極的に考える姿勢を尊重し適宜質疑応答を含めディスカッションを取り入れることも視野に入れている。なお、スクールカウンセラーの実務経験を生かし、特に6回、11回～14回の授業において実践現場の児童生徒が抱える問題について取り上げていく。問題の背景にある発達的特徴や家庭の影響なども踏まえ、事例(ケース)を示しながら支援の実践的な理解(個人の支援と同時に教師や保護者との連携や地域機関との連携など)を促進できるような展開をしたい。
合計				13	